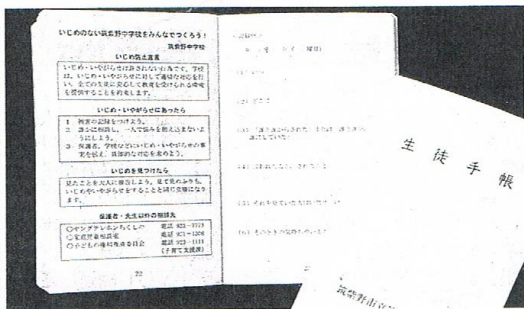


生徒手帳にいじめ対処法

いじめの対処法が掲載された筑紫野市立中学校の生徒手帳



筑紫野市教委、市立中対象

全国でいじめを苦にした自殺が後を絶たない中、福岡県筑紫野市教育委員会が本年度から、いじめの相談先や対処法を記載した「いのちの生徒手帳プロジェクト」を市立中学校で始めた。いつも身に着ける手帳が「命綱」になればと願っての取り組み。市民団体の提案に「できることは何でもしたい」と市教委や校長会がいち早く動いた。いじめの対処法を載せた生徒手帳は全国でも珍しいという。

生徒手帳は縦約10センチ、横7センチ。在学証明や校歌、校則に加え、いじめについて目撃したりしたときの記録を見開きで掲載している。方法を示している。左ページには「いじめは許されない行為」と明記し、「ちくし教育を考える会」学校が対処することを約（中尾啓子代表）の5人が束。市の相談窓口の電話番号、教育長や教育委員長らに面

市民団体提案 相談先や記録法例示

会し、生徒手帳に対処法を記録方法まで載せるのは載せるよう求めたことだ。その1カ月ほど前、東京のNPO法人「ストップいじめナビ」代表理事で評論家の秋上チキさんが福岡市で講演。そこで同プロジェクトが提唱され、会のメンバーが共感したのだ。市民団体の提案に、上野二三天教育長は「予算もかからない。すぐに取り組みたい」と即応。市教委がひな型を作り、12月の校長会で了承された。生徒手帳は毎年度末に学校の裁量で内容を決めて発注しており、既に印刷済みだった中学はシールを貼って対処した。同NPO法人によると、2013年にいじめ防止対策推進法が成立し、生徒手帳に相談機関の電話番号を載せ始めた学校はあるが、

記録方法まで載せるのは関東の私立など数校といった。須永祐慈事務局長は、教育委員会単位で導入を決めたのは初めて」としてい。筑紫野市教委によると、いじめ対策で毎月アンケートを行い、担任と連絡帳のやりとりをしているが、人目を気にして書けない生徒もいるという。相談電話番号の載ったカードを毎年配布しても、捨てたりなくしたりする生徒もいた。市では昨年度、小中学校20件のいじめが確認されている。今のところ、生徒手帳がきっかけになって確認されたいじめはないが、上野教育長は「つらい思いをしている生徒を一人でも救うことにつながれば」と話している。（下崎千加）